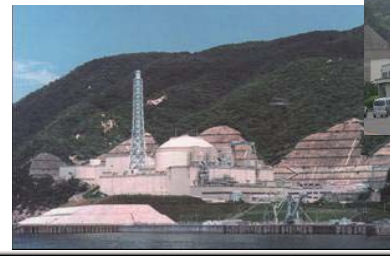


技術交流情報



【技術課題解決促進事業】 3年目を迎え、浸透してきた制度!!

平成22年度に開始した、原子力機構が抱える技術課題等について成立性を見極める事業である「技術課題解決促進事業」は今年度で3年目を迎えました。昨年度は、原子力機構の公募課題6テーマに対し、県内企業10社の応募があり、平成23年7月に7社を採択、平成24年3月の試作・調査報告会をもって終了しました。ここでは、そのうち「ふげん」の現場でデモ試験を実施した2件を紹介します。1件目は「多関節式把持装置の設計・試作」について、若狭町にある植田工業(株)三方工場が行なった事例です。この装置は、ふげんでの解体作業で発生する外径40mm～160mmの配管及び、厚さ20mm～150mmの平板を一つの把持装置で掴む事が出来るトグル機構(2つのリンクと1つのスライダーから構成されるリンク機構の一種)を持ったクランプ式アーム構造の把持装置です。把持装置全体の重さは約60kgあり、重さ100kgの配管及び平板の把持試験に成功しています。2件目は「小口径配管の縦割工具の試作」について、敦賀市にある(有)マツバ精工が行なった事例です。この工具全体の重さは約120kgあり、市販の小型バンドソーと専用コントローラを用い電動で自動昇降させることにより、長さ500mm、厚さ1.5mm～6mm、外径15mm～100mmの配管を縦方向に半割(二つ割り)します。これにより配管内部の放射性物質による汚染状況を容易に測定することが可能となります。

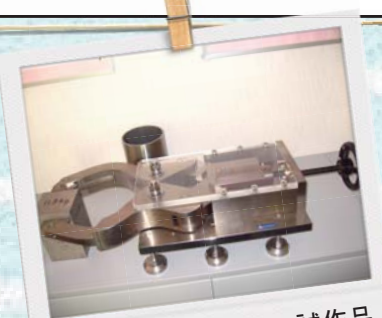
平成24年度は、公募7テーマに対し12社の応募があり、9社採択しました。今年度も福井県独自のものづくりを活かした、調査・試作に期待が持てます。



小口径配管の縦割工具の試作品



小口径配管の縦割工具の試験風景



多関節式把持装置の試作品

【技術交流トピックス】 新たな塩を目指して!! ～珈琲塩への挑戦～

技術展開推進グループは、地域企業などからの技術相談に対応しており、嶺南地域では主に農産物、食材に関する相談が多く寄せられています。平成23年度は有用廃棄物の再利用と地産地消の観点から、「梅塩」「梅の種」「珈琲の出がらし」「檜屑」の利活用を検討してきました。その中で商品開発の可能性を見極めたいとの機運が高まり、平成24年度は(財)若狭湾エネルギー研究センターのシーズ発掘調査補助金を利用し、「味覚塩技術交流会」を立ち上げました。集まったメンバーは、販売業、製造業、飲食業、施設管理業と多彩なメンバーです。また技術展開推進グループは、コーディネータとして参加しています。



珈琲塩試作品づくり風景

今年度の活動は、対象を珈琲塩に絞りました。昨年度までの段階で、甘さとまろやかさを備えた調味料ができることを確認していますが今年度はさらに製造工程の確立と品質向上、製品の安定化を図るとともに、機構の技術の展開を探りながらレシピの検討、イベント展示等の活動を展開することを予定しています。

★一口メモ

奇遇にも交流会のメンバーには小学校の同級生がいます。若き日の腕白小僧とマドンナの意外な場での再会。素敵な味覚塩ができそうです。